

① 南風

② 明らか

③ 入場

④ 船出

⑤ 天才

2

1 A エ

B イ

C ウ

2 肉食・草食

(順不同・完答)

3 イ

4 この

5 ア 1

イ 2

ウ 2

3

1 カト

2 イ

3 才口

4 イ

5 たた

6 ウ

7 落選

8 書

9 勇者

配点	
①	各2点×5=10点
②~③	各5点×18=90点
<計>100点	

※③ 問8 3行目「六字字でさがし」は「六字でさがし」の誤りでした。お詫びして訂正いたします。申し訳ございませんでした。

1 小学校2年生までに学習した漢字から出題している。①は「南」「風」ともに字形に気をつけて書くようにしよう。②「明」にはほかに「あかるい」「あける」といった訓読みがある。すべて覚えるようにしておこう。③の「入」をうっかり「人」と書いてしまわないように気をつけること。「場」の右側の形にも気をつけよう。④「船」も字形が難しい。細かいところまで気をつけて書こう。⑤の「天」の横画は上を長く、下を短く書くようにする。「才」の三画目は少しつきでるように書き、カタカナの「オ」のようにならないようにしよう。

2

- 1 A (A)の前で書かれていることを(A)のあとで「そうではない」と否定しているので、逆接の「でも」がはいる。
 - B (B)のあとから話題が「雑食とは何か」に変わっているので、話題転換の「では」がはいる。
 - C クマの鼻について、「穴が大きい」ことに加えて、(C)のあとで「鼻先がよく動く」と述べているので、添加の「しかも」がはいる。
- 2 「第三の方法」とは「雑食」のことなので、食べるものによる動物の分類を答えればよい。「肉食動物」と「草食動物」である。
- 3 「雑食」であるクマが「森の中」で見つける食べものはいくつか書かれているが、「草食動物」ではないので「かたい草」は「たくさん食べられない」と書いてあったことから、「あてはまらないもの」としては「かたい草」になるだろう。
- 4 「動物園でもよく見られる」「クマ」の「食べものの探し方」である。本文の後ろから二つ目の段落に書かれている。
- 5 ア 本文最後の段落の内容にあう。
 - イ 「かたい草」は「たくさん食べられない」とあった。
 - ウ 「目」ではなく「鼻」で食べものを探すのであった。

3

- 1 どのような場面であるのかをイメージできていただろうか。「ぼく」がかっこいいと思っていた「カトウくん」が自分をかえるために書記に立候補し、おおぜいの児童たちの前で演説をしているが、「はづかしがり屋」で「あがり性」の「カトウくん」は「オロオロ」してしまったのである。
- 2 「かっこいい」と思っている「カトウくん」がまわりから「ばかにしたようにわらって見」られていることに対して「ぼく」がどう思うかを考える。「カトウくん」のことを否定的にとらえているわけではないので、エ「なさげなくて」ははいらぬ。
- 3 線③の前に「いまは」とあるので、直前にある「メモロのカトウくん」が答えの候補になるが、「どうなっているのですか」という問いと、指定された字数にあわないので、同じような内容を述べているところを探してみる。本文の三段落目に「そんなカトウくんが、オロオロしちゃっているのです」とあった。
- 4 「カトウくん」の演説はうまくいかなかったのだから、ア「期待」とエ「満足」はえらべない。ウ「残念」は「ほっとしました」にそもそもあわない。ここはたんに「舞台のそでにひっこ」んできんちょうがとけたときの気持ちとしてとらえていいだろう。
- 5 「カトウくん」は自分の「はづかしがり屋」や「あがり性」にうち勝つために「書記に立候補する」という「たたかい」にいんだのであった。
- 6 ⑥をふくむ一文の前にある「結果より過程がだいじ」という考え方を、ぼくは「いい結果を出せないひとの⑥」にすぎない」と思い、「あまりすぎじゃありませんでした」といっているので、⑥にはマイナスの意味のことがはいると考えられる。
- 7 「カトウくん」は「たたかい(選挙)」に「やぶれた(落選した)」のであった。
- 8 「カトウくん」が「やってみ」たことである。本文三段落目に「自分から積極的に書記に立候補することで、自分のなかにあるはずかしがり屋や、あがり性にたたかいていんだ」とある。
- 9 「ぼく」は「カトウくん」を「勇氣」がある子だと思っていた。本文三段落目に「勇者カトウくん」とあった。